

【金沢区】 令和7年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和7年9月5日 15時00分 ～ 17時25分
場　所	金沢区役所 5階1号会議室
出席者	<p>【議員：5名】 谷田部 孝一 議員（座長）、 黒川 勝 議員、竹野内 猛 議員 坂井 太 議員、横溝 じゅん子 議員</p> <p>【金沢区：26名】 齋藤 真美奈 区長、野坂 高志 副区長、 船山 和志 福祉保健センター長、 渡邊 誠 福祉保健センター担当部長、 渡邊 知幸 金沢土木事務所長、 三村 英明 金沢消防署長 ほかに関係職員</p> <p>【局説明員（みどり環境局）：2名】 櫻井 暁人 公園緑地事業課担当課長 ほかに関係職員</p>
議　題	<p>1 令和6年度 個性ある区づくり推進費 決算について</p> <p>2 令和7年度 個性ある区づくり推進費 執行状況について</p> <p>3 令和8年度 金沢区予算編成の考え方について</p> <p>4 その他</p> <p>（１）小柴自然公園整備の進捗状況</p>
発言の 要　旨	<p>1 令和6年度 個性ある区づくり推進費 決算について</p> <p>2 令和7年度 個性ある区づくり推進費 執行状況について</p> <p>竹野内議員：金沢まつり花火大会について、今年も本当に素晴らしい天候に恵まれて、無事に開催できた。多くの区民の皆様からも「今年の花火は特に良かった」、「感動した」という感想をいただいている。無事故の運営、サポートにあたっていただいた区役所の職員の皆様もありがとうございます。今回はどれぐらいの皆様が鑑賞に訪れたのか伺いたい。</p>

中盛地域振興課長：無事開催できて良かった。先生方のご協力やご支援があったおかげだと思っている。主催者発表で、昨年同様、25 万 5 千人の方に鑑賞していただいた。

竹野内議員：今回の資金調達にクラウドファンディングを行ったが結果はいかがか。

来年以降も継続していただきたいが、先ほど安全第一という話もあり、警備も年々厳しいと思うが、そのような課題にも対処していただきながら、引き続き区役所としてもしっかりと支援をしていただきたい。

中盛地域振興課課長：厳しい財政状況、資金状況の中、今年度もクラウドファンディングを実施し、支援者 282 名、金額は 194 万 4,200 円という結果になった。

この花火大会は、金沢区を代表する一番大きいイベントであり、皆様の郷土愛のようなものの醸成を狙い、地域の活性化には必要不可欠なため、来年以降についても、引き続き先生方、地域の方々、企業の皆様にご協力いただきながら、区役所としても精一杯支援したい。また、3 年後には区制 80 周年である。一年一年、着実に進めていきたいため、ご協力をお願いしたい。

竹野内議員：パワーポイント資料 14 ページ「金沢若者ライフデザイン事業」について、具体的な実施予定が見えてきたが、素晴らしいものにしていただきたい。さらに具体的な日時等が決まったら知らせていただきたい。

木村区政推進課長：12 月に実施予定であり、日程が決まったらご案内したい。初めての取組ではあるが、是非ご覧いただきたい。

竹野内議員：地域の移動手段の維持確保の取組について、前回の区づくり会議で確認させていただいた。東朝比奈と六浦駅をつなぐバス便の実証運行、能見台・富岡地域のとみおかーとの本格運行に向けた直近の調整状況について伺いたい。前回の会議では、とみおかーとは 10 月頃に運行再開、東朝比奈のバス便は 8 月頃にも事業者から運行の可否について回答いた

だく予定と聞いている。

木村区政推進課長：東朝比奈と六浦駅をつなぐバス便について、事業者からは運行再開へ前向きに進めるという返事を7月にいただいた。引き続きその運行計画について、事業者と協議を実施しているが、詳細は未定である。

とみおか一とについては、8月28日に事業者から関東運輸局に事業申請が提出されている。予定より事業申請が遅れており、本格運行の時期を含めて調整している。

竹野内議員：引き続き具体的に決まるようよろしくお願いいたします。

次に、パワーポイント資料9ページ「セーフティータウン金沢推進事業」に関連して、いわゆる闇バイト強盗の被害の増加を受けて、今年度予算では防犯カメラ、防犯灯の設置補助を大幅に拡充して、さらに地域防犯力向上へ自治会町内会あたり20万円を上限に、緊急的な補助支援を実施されている。この緊急補助金の申請状況、自治会の活用内容について伺いたい。

中盛地域振興課長：闇バイトの犯罪を区としても防いでいきたい。市民局から出している緊急補助金は、8月26日現在、市全体で70件の申請があった。うち金沢区が4件。活用方法としては防犯ベストの作成、ステッカーの購入、防犯カメラの設置の検討と聞いている。

竹野内議員：まだ申請数が少ないため、年度内にしっかりと活用いただけるように、ほかの自治会ではこんなふうに活用しているという情報共有があれば、より申請しやすくなると思うのでよろしくお願いいたします。

次に、横浜市の空家・空地活用マッチング制度について、前回の区づくり会議では、管理不全の空家の課題と対応状況について確認させていただいたが、今回は空家の活用について伺う。金沢区内では地域の皆様の発意による空家等を活用した居場所づくりや交流が活発に行われていて、非常に有意義な活動を頼もしく感じている。

先日ある地域を伺った際、なかなか拠点が見つからないという相談をいただいた。金沢区内ではどこでも空家が増えていて、横浜市でも空家・空地マッチング制度を運用して、空家の活用を促そうとしているが、肝心の

空家を登録していただく数が少ない。この制度が空家の所有者の皆様にしつかりと周知されるように取り組んでいただきたい。

木村区政推進課長：建築局では、空家等の所有者と、地域活動のために空家等を探している団体等との対話を行う「空家活用のマッチング制度」を運用している。制度の周知については、各種空家相談窓口でも行っているが、金沢区でも、昨年度開催した空家無料相談会や、地域ケアプラザが開催する出張講座などで周知を行っている。

また、空家の適切な管理をしていただくよう所有者にお願いする通知には、こうした空家活用の制度をまとめてご紹介するリーフレットを同封している。

今後はこうした取組に加え、空家の発生を未然に防ぐ意味でも、広く「終活」の取組を促していくことを検討していく。

竹野内議員：一人暮らし等の高齢者情報登録制度について伺う。昨年2月の区づくり会議で、区内における身寄りのないご遺体の件数を伺い、令和元年度7件であったのが4年度16件で増加傾向にあると確認した。

親族の有無の調査をした結果、親族がいない場合には生活支援課職員が火葬の執行や費用の支出などの業務を行っており、決して少なくない公費負担が発生しているが、何より亡くなられたご本人の尊厳ある死という観点からも大きな課題であると思っている。

そこで、以前より提案・指摘をしてきた、孤独死など万が一に備えた高齢者の情報登録制度、具体的には65歳以上を対象に、葬儀会社との契約や遺言の有無、緊急連絡先、エンディングノートの保管場所などを市のシステムに事前に登録し、病院や警察、消防などの関係機関からの問合せに対して登録した情報を伝え、円滑な対応を取れるようにするという仕組みが導入され、今年度内に各区に支援相談窓口が設置されることとなっている。そこでまず、窓口設置の準備状況と開設時期の見込みについて伺う。

小林高齢・障害支援課長：相談窓口については、市社会福祉協議会の「横浜生活あんしんセンター」に設置する。また、情報登録の入力支援のための窓口については、身近な場所で支援が受けられるよう、18区の社会福祉協議会での設置に向け、現在健康福祉局が調整を進めている。それぞれの

窓口の開設時期について詳細は未定だが、この秋から設置すると聞いている。

竹野内議員：何よりも対象となる皆様にこの制度がしっかりと周知されて、実際の登録につながることを大事だと思っている。そこで、この制度の周知、登録の推進をどのように行っていくのか伺いたい。

小林高齢・障害支援課長：健康福祉局においては、65歳の方に介護保険証を送付する際のチラシ同封、広報よこはま 12月号への掲載のほか、機運醸成のための講演会の実施を予定している。区役所としては、民生委員の一人暮らし高齢者訪問でのチラシ配布、ケアマネージャー等の支援事業者やシニアクラブ等での周知など、多くの方に情報が届くよう、様々な機会を通じてきめ細かく周知を行う。

竹野内議員：さらに大切なことは情報登録をきっかけに高齢者の皆様ご自身がどのような準備をしておくべきなのかを考えて、具体的な行動につなげていただくこと。窓口では、高齢者の方々の不安や悩みに寄り添って、適切な助言を行っていただきたい。

小林高齢・障害支援課長：高齢者の方が安心して老後を過ごすためには、医療や介護、財産といった問題について、将来に備えて準備をしていただくことが重要。区役所においては、これまでも、様々な老後の不安等の相談に対応してきたが、本事業の開始をきっかけに終活に向けた準備をより具体的に組みこんでいただけるよう、地域ケアプラザと連携を図りながら、引き続き丁寧に相談対応に努める。

竹野内議員：経営不振などが報じられていた日産自動車について、先日、経営再建の一環として、横須賀市の追浜工場が閉鎖されると発表があった。工場に隣接する金沢区の幸浦・福浦地区にも直接、間接に追浜工場の業務を請け負う会社が多数あり、各社の経営や雇用への影響を強く心配している。

横浜市としても、米国のトランプ関税の影響への対策ということも含めて、今議会において補正予算を組んで、資金繰り等の支援を強化すること

としているが、事業者によって様々な状況がある。区役所としても、産連協・経済局をはじめ、関係者の皆様と連携をして現場の状況と情報の把握に努めていただきたい。

木村区政推進課長：今回の工場閉鎖の報道を受け、区としてもその影響を注視しているところだが、個別企業からの相談は寄せられていない。把握した企業の状況やニーズがあれば、迅速に関係局と連携してできる限りの支援をしていきたい。

また、市対策本部をはじめとした関係機関が発表した支援策等については、必要に応じて区内の関係団体にしっかりと伝えていきたい。

竹野内議員：3歳児健診での目の屈折検査の導入について伺う。今月から金沢区含む6区でモデル実施がスタートすると承知している。弱視などの早期発見に有効なものとして、導入を求めているものである。しっかりと準備をしていただき、従来の視力線検査と合わせて子どもの目の健康を守る取組を着実に実施していただきたい。

山崎こども家庭係長：屈折検査の準備状況について、金沢区では来週9月10日の3歳児健診より屈折検査を行う。これまで準備として、検査の流れや会場のレイアウト、導線の整理、検査スタッフとの打合せ等も進めている。実際にデモンストレーションを何度か行っており、来週からの本番に備えている。

竹野内議員：しっかりと取組を進めていただくようお願いしたい。

黒川議員：先ほど避難所5箇所を設置したということだが、以前から言っている避難所の環境整備をもう少しきちんとやってもらいたい。情報を得る手段として、最低限テレビは必要。Wi-fiの環境については、皆さんご自分でパソコンを持ってきたり、スマホで情報収集をしたりすることがあると思う。それと空調関係について、小学校の体育館にはまだ設置されていない。パソコンについては、職員の皆さんが持っていて、ホワイトボードに情報を書いている場所があるようだが、現在の状況を教えていただきたい。

小柳総務課長：まずテレビ、Wi-fi については現状、残念ながら十分には用意できていない。ご意見は検討をさせていただければと思う。

空調については、6 年度末に定めた「新たな地震防災戦略」の中で、小中学校体育館（地域防災拠点）の空調整備として 11 年度までに全て整備するという方針を出し、進捗が前倒しになった。ご質問いただいたのは風水害の避難場所ではあるが、地震の避難所も基本的には公立の小中学校の体育館であるため、同じ場所が多くある。引き続き必要に応じて教育委員会等に働きかけを行っていききたい。

黒川議員：空調は関東学院大学や地区センターでは完備されているので良いが、小中学校はこれから整備することが決まっている。特に風水害で開設する場所は、優先順位を高めて、早めに設置をしてほしいという要望を是非金沢区役所から教育委員会に対して言ってもらいたい。

特に台風シーズンは暑い時期で、台風が行った後は猛烈な暑さが復活することになるため是非働きかけをお願いしたい。Wi-fi についても優先的な整備を要望して欲しい。

次に、昨年度の報告の中で、スクールゾーン対策協議会の開催支援及び路面標示等の実施であるが、いくつかの学校のスクールゾーン協議会の皆さんから、毎年 PTA やスクールゾーン協議会のメンバーが変わるが、前のメンバーから申し送りをもらって、解決するものもあるし、全く解決しない、何年も塩漬けになるという話をよく聞く。どういう要望があって、どういう対応をしたのか、あるいは対応ができないところがどういうところなのか、またその理由はどうなのか、スクールゾーン協議会の皆さんからもそのようなお話を伺うし、地域の皆さんからも同じ内容を伺うこともある。その都度土木事務所に聞いたり、様々な方にお伺いしたり、対応をお願いしたりすることは効率が悪い。もし資料としてそのようなものがあればいただきたい。

中盛地域振興課長：スクールゾーン対策協議会では、路面標示の話は、非常に多い。限りある予算の中で順次行っている状況である。こういったご意見があったかをまとめたものはないが、提供できるものを確認して、提供したい。

黒川議員：特に最近多いのが自転車の通行で、矢羽根のようなものを書いてあるが、その通りを逆走する自転車が非常に多いため、注意喚起をしてほしいという要望がある。全域で様々な小学校から出ていると思うが、そのあたりは対応策や何か考えはあるか。

中盛地域振興課長：基本的には自転車の乗り方やマナーの問題だと思っている。以前からご案内しているとおり、小学生向けの自転車のマナー講座等を行っているが、今年度は広く大人の方に向けてマナーアップを進めていく。そうした取組を通して、自転車の基本的なルールを皆さんに知っていただくことが大切になる。

黒川議員：パワーポイント資料 14 ページ「金沢若者ライフデザイン事業」の「ライフデザインセミナーの開催」について、新規なので非常に興味を持っている。今の若者の考え方を知る良い機会ではないかと思う。ワークショップ的なことやグループディスカッション的なことの中から、若者たちの今の考え方がどうなのかということに、非常に興味があり、それを知ることが大事だと思う。横浜市こども・子育て基本条例でも、若い世代や子どもたちの意見を政策に反映することを示しているため、このセミナーについて、工夫があれば教えていただきたい。

木村区政推進課長：先日入札を終えてまだ契約はできていないが、力のある事業者と事業を進められそうである。高校と大学と一校ずつ実施させていただく中で、実際の運営内容については、事業者と一緒にどういったことができるかを最後までより良くしていけるように考えていきたい。また、成果について、学生が、受講前と受講後でどんな感じで意見が変わったのかというデータを取ってその効果を生かしていきたい。

事業者の中には、以前にほかの自治体でも同様のアンケートをしているので、その比較などを行いながら成果の検証をしっかりと行い、今後の施策にも学生の意見を生かしていきたい。

黒川議員：是非よろしくお願ひしたい。パワーポイント資料 18 ページ「LINKAI 横浜金沢推進事業」の「ハローワーク連携・人材確保支援事業」

については、企業側のニーズがいくつかに分けられると考える。例えば年齢層で分ける、性別で分けるなど。また、並木地区あたりのこれから働きたいと思っている女性や主婦、お母さんたちや、定年後やそろそろ定年だという東京の大手企業で働いていた人たちが、定年になって地域に対して何か還元したい、自分のノウハウを伝えられるような企業がないか知りたいというニーズがあるのではないかな。さらに、若者や大学生など、漫然とハローワークのように企業の募集ブースを設けるのではなく、女性や高齢者、若い人で分けて、面接の会場を工夫されると分かりやすくなると思うが、そのような工夫をしていれば聞かせていただきたい。

木村区政推進課長：全国的に人材確保が深刻化しているため、非常に重要だと考えている。その中でシニア層や女性などの多様な人材が LINKAI 企業にとって一層大きな戦力になると考えている。今回、ハローワークと連携して実施する相談会だが、参加する企業の求人内容は、例えば、法人向けのルート営業でのフルタイム勤務、エレベーターの製造・組立に携わる技術職、柔軟な働き方が可能な夜間休日の宿直・清掃、中学校給食センターでの調理補助や配送業務などバラエティに富んでいる。この中で、同じ規模でもフルタイムとパートタイムとの両方を募集しているところもある。そのようなことも踏まえて、会場の工夫としてどのようなことができるか考えていきたい。

今回、来年度に向けてターゲティングをきちんとした方が良いのではないかなという意見もあり、実際に会場を見ていただいた意見やマッチングの事例を見てターゲティングできるかどうかを含めて考えていきたい。

黒川議員：スペースで分けるのも一つの考え方であり、女性向けなのか、高齢者向けなのか、若い世代の人たち向けなのか一目でわかるような工夫があると、よりわかりやすくなるのでお願いしたい。

次に、パワーポイント資料 22 ページ「「寄り道×Kanabun」整備事業」について、以前にも話題となったが、金沢文庫駅の西口を禁煙にできないか。禁煙できるような工夫や分煙をするような工夫ができないか。せっかく整備するのでそのあたりを手がけてもらえると良いのだが。

木村区政推進課長：禁煙地区については、横浜市内で特に人通りの多い 8

つの駅周辺が喫煙禁止地区になっている。乗降客数や人通り、吸い殻の散乱状況を見て、トータルの中で検討することとなっているが、金沢文庫駅が指定される予定は今のところない。

現在は、喫煙者が多い場所としてパトロール対象エリアとして喫煙ルールやマナーの周知啓発をしっかりと行う美化推進重点地区に指定して取組を行っている。

黒川議員：せっかく子どもたちが遊べるようなスペースや楽しくイベントができるようなスペースを作ったところで、その隣で大人たちがたばこを吸う状況になるのは悲しい。

今年の4月から横浜市の公園は全て禁煙ということに決まった。そのため、公園に準ずる場所とする扱いで、横浜駅周辺とは違ったルール作りが必要ではないか。区で制度化が難しければ、区から局へ提案をしてもらいたい。

木村区政推進課長：公園の部分については、現在道路区域になっていて、公園整備を行う予定はない。まずは、このスペースを誰もが気持ちよく利用し、自然と賑わう場所にしたい。喫煙については、前回の区づくり会議の際、ベンチの数について意見をいただいたため、それを踏まえて、ベンチの数を減らしながらも賑わいを生めるような仕組みを、若手職員を中心に検討している。併せて局にも相談していきたい。

黒川議員：パワーポイント資料 23 ページ「脱炭素・GREEN×EXPO 推進事業」について、花火の際、ゴミステーションの運営を実施ということだが、翌日にゴミ拾いを朝から様々な方がお手伝いしてくれた。インターンの学生を連れて行ったら、資源循環局がトングやビニール袋、軍手を用意して、来た人たちにそれを配ってくれていた。花火の日に、「明日の朝、清掃をやりますので皆さん来てください」のような呼びかけなどの PR をして、みんなでゴミ拾いができたら良いと思う。工夫や今後の展開があれば教えていただきたい。

中盛地域振興課長：花火大会翌日、先生も暑い中、お越しいただきありがとうございました。今年度は、横浜銀行と地元の環境事業推進員の方で合

計 30 名程度の方がいらっしゃった。資源循環局金沢事務所と連携して進めていただいた。また、子育て支援サークル金沢区ママの呼びかけで、合計 50 名ほどにもお手伝いいただいた。

これは SNS 等での呼びかけによるものだが、区としても、こういった緩やかで誰もがいつでも気軽に参加できる仕組みは非常に大切だと考えている。次年度以降にも、緩やかなつながりの部分も含めながら検討材料としていきたい。

黒川議員：杉田で行った道路啓開訓練を拝見した。レッカー事業者や土木事務所などによるレッカー車の移動や道路の段差を埋める作業により、あっという間に道路を利用できるようになった場面を拝見した。道路局長から金沢土木事務所は、傑出して訓練を重ね頑張ってくれていると言われた。上に置くプレートのようなものを持ってみたら軽くてびっくりしたが、いざ大災害の時に出勤する金沢土木事務所では、そのような備品を何か所分ぐらい確保して準備しているのか教えていただきたい。

渡邊金沢土木事務所長：先日はありがとうございました。段差の解消部材だが、最近は発泡スチロールのような部材で、非常に強固で軽量の扱いやすいものが出てきている。いち早く導入して、備品として常時土木事務所に配備している。最近出始めたものであるため、これを使って訓練を重ねて習熟し、さらに必要に応じて数を増やしていきたいが、発展途上の段階である。先生からも応援いただくようなご発言もいただいたので、しっかり訓練を重ねて様々な対応ができるように工夫していきたい。

黒川議員：大きな地震があった時には、どこで何がどのくらい起こりそうかを数字として出して申請すれば予算が下りると思うのでよろしく願いしたい。

渡邊金沢土木事務所長：国では、例えば都内であればどのように道路啓開をしていくかというような計画づくりを進めている。そのような情報を国からもいただいております、それを踏まえて、どの路線で何か所ぐらいということも横浜市の中で検討しているため、しっかりと進めていきたい。

坂井議員：パワーポイント資料6ページ「居住促進プロモーション事業」について、居住していただける方を増やしていこうとする考え方は良いが、金沢区の問題として人を増やさなければならない。家が建っていてそこに人がいなくなると、どんどんその地区が悪くなっていく。そうするとまた人が住まなくなっていくことになる。それは非常に困るので、どうやって人口を増やしていくか、皆さんに来てもらおうかということを考えているか。

木村区政推進課長：広報面でいかに訴求しても、実際に住めるところがないと外から人が入ってくることはない。7年度の「金沢魅力プロモーション」では、6年度の「居住促進プロモーション事業」で作成したコンテンツを使って、金沢区で暮らせる魅力をしっかり発信していこうというサイトを作る予定である。このサイトを改良していく中で、例えば、不動産会社と連携をとり、人を実際に流していって、人が住む流れを作っていく取組を考えている。

坂井議員：金沢区だけで建ぺい率を変えたら困るが、そういうことも含めて、こちらから発信していくことができると思う。住む人を増やしていく必要があるので、皆さんも頭を絞りながらどうしたら住んでいただけるのか考えてほしい。子育てしやすいまちにすることで、若い人が住み始め、また、お年寄りが最終的にそこで終の棲家として生きたいと思うかもしれないので、よろしくお願いしたい。

次に、自転車について、普通に生活をして目に余るものがある。テレビでは、「罰金を払わないといけないような罪に問われることもある。」とされている。

啓発活動の対象は小学生になっているが、大人にも啓発活動をしていく必要がある。事故を起こしてから後悔するのでは遅い。大人に対しての啓発活動はどのように考えているか。

中盛地域振興課長：警察からの情報や報道等でもあるが、自転車でのヘルメット着用の努力義務や飲酒運転に対する罰金が科されている。

これまでの高齢者向け自転車教室を大人向けにリニューアルし、少しでも若い世代にも知っていただき、啓発を行っていききたい。

坂井議員：商店街を自転車でスピードを出して走っている若い子がいるため、小さい子どもがパッと飛び出したら大変なことになる。

次に、GREEN×EXPO が始まるが、取組はこれだけで良いのか。金沢区は会場から遠いが、盛り上げる方法はないか。

木村区政推進課長：開催まで2年を切っており、さらに区民の方に盛り上げていただきたい。今年3月に横断幕を作成し、京急の駅前に掲出したが、このような形で、横断幕などを区内にもっと出して、目にGREEN×EXPOが入ってくるようなことをまず考えていきたい。

また、「脱炭素・GREEN×EXPO 推進事業」では、庁内でプロジェクトチームを作り、盛り上げ策を考えている。その中でどういったことができるかを考えていきたい。

坂井議員：園芸もブームのようである。例えば先ほどのコンポストのお話にもつながっていく。区の中で盛んになっていけばまちが綺麗になり、園芸を始める方々が増える。それがGREEN×EXPO でもうまくいく方向に結ぶと思う。

次に、金沢文庫駅のスペースの問題について、先ほどタバコの話をしていたが、問題は市にもある。ポイ捨てはゴミ、タバコを吸うことについては健康という話ではなく、金沢区がうまく進めていけば他区でもうまくできるのではないか。発想の転換で金沢区がまず一番にやる。金沢区はこうしたいということを是非とも上に上げる努力をしていただきたい。

最後に、パワーポイント資料 24 ページ「誰にもやさしい区庁舎整備事業」に関して、DXが進み、ネット上で市に申請することができるようになってきているが、ある区のNTTのアンテナ基地局では、無線通信インフラが弱くつながりにくい状態になっている。もしかしたら、金沢区の中にも無線が届かないエリアがあることになる。

バス線や水道は市で整備しているが、通信インフラについては民間事業者に頼っている。金沢区内に通信インフラが弱い地域があるかどうか把握しているか。

小柳総務課長：例えば、NTT ドコモ、au、ソフトバンクなど、それぞれの

通信事業者のネットワークがどのようになっているかは、それぞれの会社のホームページで把握できるが、区としては一元では把握していない。

坂井議員：通信についても、非常に大切なインフラになってきている。横浜市が DX だと言ってもインフラを民間企業がやっているという状況でいいのか。パートナーシップなどでインフラをうまく整備していけるようにしていく必要がある。これにもなるべく金沢区から発信をしていただきたい。

先日の市長選挙で、某候補者が「横浜市は、東京都よりも道路の白線が消えている、大都市なのに大丈夫か」と言っていた。そんなことはないと思しい思いをしたが、そういうことも含めて、区と局の事業連携をさらに行うことを金沢区役所の人たちにやっていただきたい。特に区長にやっていただきたい。（意見のみ）

横溝議員：金沢区のまちづくりに関して、私どもの世代から言われていることは遊ぶところが少ないこと。海の公園は素晴らしくて、バーベキューや潮干狩りに行くが、お店や食べ物を売っているところが少ないため、お金を使う場面も少なく、賑わいが生まれていないというところが疑問視されている。他都市では、例えば豊洲パークにはブルーボトルコーヒーがあったりと民間と協働して盛り上げている。この素晴らしい海の公園の魅力やプロモーションを今後強化していく計画はあるか。

木村区政推進課長：海の公園の年間利用者数は令和 6 年度実績で約 130 万人程度となっている。潮干狩りの時期がハイシーズンでひと月に約 17 万人がお越しになる。海の公園の良いところはレクリエーションやマリナービーチなどいかにもマリンテイストのものだけではなく、海の環境を考えるような講座を行っていたり、金沢文庫芸術祭のような文化的なものも行われていたりする。公園の指定管理者である横浜市緑の協会では、プロモーション映像の制作や観光情報の映像発信、横浜金沢観光協会と連携した広報なども行っている。金沢区としても、先ほどお話しさせていただいた区の魅力発信ポータルサイトを活用しながらしっかり発信していきたい。

横溝議員：子育て世代からの声だが、各所でお子様を連れて遊ぶ場所がな

く、一方、磯子区には有料で遊べる大きな施設がある。高齢化が進んでいる金沢区では、お子様向けの施設が民間でも少なくて困っているという声を聞く。小柴自然公園は後ほど説明をいただくが、野外のスペースが多いという印象。室内で遊べるところはあるか。

また金沢図書館のリノベーションでは、遊びの施設は幼児に関してはあるが、6歳、7歳以上が遊ぶスペースを確保する計画はあるか。

櫻井みどり環境局公園緑地事業課担当課長：小柴自然公園については後ほど詳しくご説明するが、みどり環境局の公園部隊は、基本的に野外で遊ぶ公園中心の施設づくりをしている。体育館等室内で利用いただいているものは、別の形で一区に一館という形で整備をしてきた。ただ、最近暑さが非常に厳しく、先生がおっしゃるようなご要望もたくさんいただいている。

小柴自然公園は、第1期エリアを開園しているが、まだ整備が続いている。今後、指定管理を入れて、その指定管理事業者の工夫で、水遊びができる自主事業のようなことができると思っている。私どもが考えている施設については、野外の施設を中心に整備する。

石川読書活動推進担当課長（金沢図書館長）：金沢図書館のリノベーションについて、年度後半に向けて関係部局で取組を進めている。その中で子どもたちが本に親しみながら過ごしていただけるように、様々な工夫をする。1階の児童フロアでは、小さいお子様が靴を脱いで、楽しんで絵本に触れ合う小上がりスペースの拡充を考えているほか、児童フロアの奥では少し大きめの机を配置して、そこでは親子はもちろん、放課後の子どもたちがグループでおしゃべりをしながら調べものなどをしていただくコーナーを設置していこうと考えている。

また、2階は大人向けのフロアだが、今回10代向けの本とグループ席を配置したティーンズコーナーを設置し、中高生など、子どもたちの居場所となるよう取り組んでいこうと考えている。併設する地区センターとも連携しながら、若い世代にとって利用しやすい図書館づくりを進めていく。

横溝議員：小柴自然公園について、ログハウスなどは予算の問題やメンテ

ナンスの問題で難しいということで、野外のスペースになるということか。

櫻井みどり環境局公園緑地事業課担当課長：小柴自然公園の計画について、作る前に地域の意見を伺って、基本の計画を決めて進めている。その中でログハウスを公園の中に作るものもあるが、小柴自然公園は特にそういう施設を当初入れない計画である。これから第2期エリア、第3期エリアを進める中で、ログハウスを作るスペースはないが、意見を伺いながら都市整備をしていく。

横溝議員：シニアの方から、自転車でお買い物をする際、停めるスペースがないという声をよくいただいている。金沢八景駅の京急ストア、バスターミナル口のところにかなりスペースがあり、そこをコイン式などにして、料金を徴収して、お客様が使えるようなスペースにすることは可能か。実際はかなり路駐されていて、そこが空になっているのはあまり見ないが、そこに誘致して駐輪場を作るといった計画はあるか。

中盛地域振興課長：金沢八景駅前の放置自転車の状況や駐輪場の関係を含めて、これまで先生方から質問をいただいてご指摘いただいている。今現在、平潟湾沿いにある金沢八景駅自転車駐輪場はまだ空き状態である。現状としては、新しいものを作ることは困難な状況である。

一方、区役所としても、金沢八景駅の自転車駐輪場は駅から少し離れていると認識している。場所が分かりづらいというお話も聞いているため、当該エリアは、放置自転車禁止区域でもあるため、これまで行っているように、注意喚起や道路局と連携した放置自転車の移動を重点的に引き続き行っていくとともに、駐輪場がどこにあるか分かりやすくするという事も進めていく。

横溝議員：称名寺の池の件だが、9月2日の現地調査では、41匹の鯉を水再生センターに移動する手続きがあり、消防署の方にたくさんお世話になり、ありがとうございました。三村署長にもお電話で何度か伺ったが、放水訓練の様子や日程を共有するのも難しかったので、教えていただき感謝している。

能見台の特別救助隊は全国救助大会で入賞されたが、表彰などは伺っていないので、外に発信してほしい。私は、消防団の分団に所属しているが、女性であり働いている方などは、なかなか入団へ一步を踏み出せないのではないか。能見台の方の活躍や横浜市のこういう活躍を外にもっと発信すると、そういった方も増えると思うため、金沢区は大々的に発信していくのも良いと思う。そのようなところは協力したいと思っている。全国救助大会の結果を伺いたい。

宇元金沢消防署副署長：消防への応援ありがとうございます。能見台の特別救助隊は、先日行われた兵庫県での大会で無事に入賞することができた。皆様の応援のおかげであると思う。今後、消防署・消防団の両方をアピールして区民の皆様の安全と安心のために活動していきたい。

3 令和8年度 金沢区予算編成の考え方について

黒川議員：考え方としては良いと思う。観光協会は、横浜の中心部を除くと18区の中では金沢区にしかないと聞いている。「令和8年度 金沢区予算編成の考え方」の④まちの魅力づくりでは、観光協会の皆さんとの連携が非常に重要になるが、予算が少なくてやりたいことはあるが難しいという話を聞く。是非観光協会と連携して、特に金沢区の魅力を発信する部分で活用してもらいたい、観光協会との連携の中で、区長の考えを聞きたい。

齋藤区長：横浜金沢観光協会は本当に一生懸命やってくださっていると思う。グッズを作ったり、様々な観光事業にも顔を出していただいたりして、とにかく地域の皆さんとの顔つなぎを一生懸命やっていたい。

今、日本全国インバウンドで湧いているところがあるが、ここはたくさんの方々が住んでいる街ということもあり、インバウンドとどう兼ね合いをつけていくかは、他の観光地と同じように難しく、悩ましい課題だと思っている。実施しただけインバウンド効果があるかもしれないと思いつつも、安心して住める環境にどのような影響があるかという懸念がある。先行してやっている観光地を参考にしながら、インバウンド効果を考えていく必要がある。

区民の皆様のための事業というよりも、外から訪れていただけるようにするのが観光協会の役割ということを考えると、そのようなことを意識して取り組みたい。予算の問題以上に、観光協会の体制が非常に限られたマンパワーでやっているため、仮に予算を多くしたとしても、それを執行できる体制にするのが難しい。どのように対応していくか、引き続き協会ともよく対話をして、8年度に反映できるものを反映したい。

黒川議員：金沢区の大きな特徴は地域の皆さんの力が非常にあること。先ほど金沢区ママの話があり、その他にも様々な団体やカルタをやっている人たちなどもいるので、そのような人たちと連携をしながらやっていけば、①から⑤まで全部関わってくる。そのようなところにも是非力を入れて、区役所だけでやるのではなく、区全体や様々な人を巻き込んで金沢区を作っていくという視点を盛り込んでいただきたい。（意見のみ）

坂井議員：区制 80 周年で何をするか楽しみだが、何か思い当たることはあるか。

齋藤区長：今の時点で具体的なアイデアはない。ただ一つ言えるのが、区役所が主体、行政主導でやる時代ではないと思っている。前回の 70 周年の時には、建て替えた公会堂のお披露目やピアノの寄贈をしていただき、区民の皆様に金銭面も含めて、たくさんご協力いただいた。

周年事業はどこの区でもやっているが、行政主導から区民の皆様と共にという流れがある。今回も早々と一緒にやりたいとおっしゃってくださる方が区役所に来られ、お話を伺った。できるだけたくさんの方が自分たちのやりたいことができて、区役所も一緒に取り組み、その集大成が 80 周年事業になれば良いと考えている。

坂井議員：お祭りはみんなが楽しくなっていくことが、一番盛り上げることに重要になるため、皆さんも楽しんで 80 周年を迎えていただきたい。（意見のみ）

横溝議員：「令和 8 年度 金沢区予算編成の考え方」④まちの魅力づくりについて、私も観光協会を訪れたことがあり、グッズを売られていて、一生

懸命仕事をしているのを拝見した。花火大会の運営もしており、少人数で大変だと思う。

費用対効果がとても良いのが SNS であり、まだ伸びる余地がある。区づくりの予算が 200 万だが、若干足りない。インスタグラマーで金沢区の情報だけを発信している方がおり、来週、金沢区の魅力の発信について意見交換をする。若い人に外部から移住してほしいと考えていると思うので、協力していただきたい。

齋藤区長：区役所でも SNS を頑張ってやっているつもりだが、様々な方が発信をされていて、あっという間にフォロワー数を抜かされた。今お話があった方は、開設して半年も経っていないが 1 万人のフォロワー数を超えている。

発信力がある方とタイアップしていくことは大事だと思っている。役所主導ということではなく、様々な方が自由に発信できるようになっているため、それぞれが緩やかにつながりながら、今以上に金沢区の発信力を高めていきたい。

横溝議員：昨日、金沢区を舞台にした「ハウセンカ」という映画の舞台挨拶にお招きいただき鑑賞した。本当に素晴らしい映画で、お子様向けというよりも、大人向けで 40 代～70 代にも響きそうで、何度見ても気づきがある映画だと思う。来年アカデミー賞を狙えるような映画であるため、ポスターを大々的に貼って、外にも金沢区でやった映画だと発信していただけると、今後もっと知名度が上がると思う。意見としてお伝えする。

4 その他

(1) 小柴自然公園整備の進捗状況

黒川議員：インクルーシブの遊具について、健常者の方々と障害者の方々が一緒に遊んだり、障害者の方々とお子さんたちが一緒に遊んだりする状況にはなっていない。特に休みの日は混雑するため、障害者のお子さんがいらっしゃるお父さんやお母さんは、なかなか連れて行きたがらない傾向があり、健常者の人たちも障害者の人たちが来た時にどうやって接したら良いか分からないと聞いている。

私が以前に提案したプレイリーダーのような人たちを行政として養成して、障害者の人たちが来た時には、健常者の人たちと一緒に遊ぶ遊び方を教えてあげるような工夫をしてはどうか。健常者の人たちが、障害者のお子さんたちと一緒に遊ぶことによって、例えば大きくなった時に駅で障害者の人を見かけたら、気軽に声をかけてあげられるようになり、お手伝いができるようになるなどの効果も期待できる。

この点を、みどり環境局や健康福祉局、こども青少年局ではこれからどう考えていくか。みどり環境局では、市内にも今後数か所インクルーシブ遊具を使った公園を作る話を聞いているが、その際にもこのような視点がないと健常者と障害者の方々がインクルーシブと一緒に遊べる状況を作るのは難しい。

櫻井みどり環境局公園緑地事業課担当課長：インクルーシブの関係については、先ほど資料説明差し上げたとおりアンケート調査を行った。その結果、混んでいる時はどうやって遊んだら良いか悩むという意見もいただいている。

プレイリーダー的な取組については金沢区から提案を受けている。来年度の連携事業で金沢区の区政推進課やこども家庭支援課、高齢・障害支援課とどんな形ができるかを考えていく。

第2期エリア開園時には指定管理者を入れて、どのようなことができるかを、来年度以降の調査や取組、試行を踏まえて検討していきたい。市内のインクルーシブ遊具広場を他の公園にもという動きも出ているため、状況を見ながら見守っていただきたい。

黒川議員：是非金沢区で成功事例を作っていただき、他の区にも広げていただきたい。

スケートボードやインラインスケート、ボルダリング、BMX（自転車モトクロス）、パルクールのような X スポーツと言われているスポーツの練習ができる場所を是非導入してもらいたいという話を私や他の議員も提案してきた。この第2期計画には取り入れてほしいという声がずいぶん上がっていたことを覚えているが、この第3版の概要版には入っていないような気がする。指定管理も含めて、そのようなお話がこれから出てくるのか、あるいはみどり環境局では把握していないのか、ご意見を聞かせていただ

きたい。

櫻井みどり環境局公園緑地事業課担当課長：そのようなニュースポーツ、アーバンスポーツについては、第3期エリアで今後整備できたらと考えている。

第2期エリアの概要について、資料の右上の図面にエリア分けの図面があり、第2期エリアが上側の水色の部分と下のオレンジ色っぽい部分である。今後の整備区域については、下側が里山空間再生エリアとなっており、自然を生かした形でインクルーシブ的な要素を取り入れて、障害者の方も気軽に自然に触れ合えるようなエリアとなっている。こちらは市会でもお答えしたものである。上の方の自然環境保全エリアは、今の自然をなるべく残そうと考えているエリアである。真ん中の紫色っぽいところは第3期エリアだが、タンクを埋めて公民連携という形で民間のノウハウを活用しながらできるだけ市民の方に親しんでいただけるものを作っていきたい。第3期の具体的なところは整理しきれていないため、計画の整理ができた段階で、このような場でご説明する。

黒川議員：是非新しいスポーツも積極的に取り入れて、大勢の来場者が来られるような工夫をしてもらいたい。入場の際には、入場料や利用料を徴収する考えがあるかないか教えていただきたい。

櫻井みどり環境局公園緑地事業課担当課長：戸塚区にある舞岡八幡山しぜん公園でニュースポーツができる施設を作っており、スケボー広場を令和8年度中に整備して9年度に開園する予定で進んでいる。このような施設を有料にするのか、無料にするのかを整理して皆様にお伝えしたい。今進めている舞岡の方は、オリンピックの競技にも通用するような施設であるため、有料施設になると思う。これから議論してご説明したい。

黒川議員：中途半端なものを作ってお金が取れないから、施設だけ作って、そのまま作りっぱなしになるよりは、ある程度利用料金をいただく前提で、素晴らしい施設を作ってもらい、その後のメンテナンスや拡充をしていくことを踏まえ、受益者負担の原則は守ってもらいたい。里山空間は、斜面をうまく利用して、例えばジップラインのようなものやBMXができる

と良いと思う。

様々な方から、大会を開催する時に、多目的レクリエーション広場の目の前まで、車やトラックを持ってきてから備品の搬入搬出をできるようにしてもらいたいという要望をいただく。しかし、現状、資料1の旧ポンプ室（レストハウス）の前あたりまでしか車が来られなくて、そこから運ぶのが非常に大変だという声を聞いている。この下に川があり、管理用ゲートがあるが、そのゲートの鍵を開けてもらえると、ここに止めて、そこから搬入をするというのが非常に現実的に良いという話も聞く。そのあたりについて利用者の人たちから声が上がって、それを聞いているか、それについて対応は何を考えているか。

レストハウスの活用方法については荷物置き場のようにする、子どもたちが遊べるようにする、空調をつけて涼しくして、暑い中でも一休みできるようにするなどの工夫があると良いが、これら2点について考え方を教えていただきたい。

櫻井みどり環境局公園緑地事業課担当課長：まず1点目、当初駐車場は、資料1の図面の一番左側までしか入れなかったが、先生方からもご要望をいただき、レストハウスのところまでは入れるようになっている。こちらは障害者用の駐車場のため一般の方は入れないが、工事中のため監視員がおり、おっしゃっていただければ中まで入れられるような手配をしている。そこからも遠いという声があるが、手前にインクルーシブ遊具広場があり、障害者の方もいらっしゃるため、車をそれ以上入れることは難しい。反対側の橋から入れられれば良いというご意見について、当初、ここからも車を入れられるようにしたかったが、県警との協議で交通上危険なため入れないような状態である。橋自体が重さに耐えられず、車を入れて車が川に落ちてしまったら大変なため、橋の使用は今のところ厳しい。やるとすれば橋を掛け替えて、警察から許可をいただければ可能だが難しい状況である。

レストハウスについては、当初、米軍が使っていたポンプ室を活用してシンボリックなレストハウスができると考えていたが、骨組みの調査をしたところ曲がっており、再利用ができないため、一度撤去して同じようなものの設計をやり直している。当初は8年度にレストハウスを公開したかったが、新築となったため基礎工事が必要となり、レストハウスの下の土壌

汚染の対策工事をやらなければならない。将来的に管理する南部公園事務所や設計会社、建築局で、どんな形が一番良いかということ、時間をかけて良いものを作ろうとしている。先生がおっしゃったように空調は当然作り、ものが入られる空間もできたら作り、障害のある方がクールダウンできるような場所も簡易的だが取り組んでいく。

横溝議員：レストハウスが障害者用の駐車場になるが、車を持っていない方がここまで通うのはかなり遠いので、そういった方への配慮で臨時バスを出すなどの考えはあるか。

櫻井みどり環境局公園緑地事業課担当課長：臨時バスは今のところ考えていない。市営バスもあるが、本数が少ない。電車の利用の方は、シーサイドラインで歩いて来ていただいている。第2期エリアができて利用する方が増えれば、交通事業者で考えていただけるかもしれない。その際には、お声かけをさせていただいて、交通関係の事業者の判断で便利になるかどうかになるが、情報を発信させていただく。

坂井議員：米軍基地であったということを先ほどシンボリックと言っていたが、米軍基地があったとかモニュメントがあったということは打ち出すのか。

櫻井みどり環境局公園緑地事業課担当課長：第1期エリアの時も米軍だけではなく、海食崖があったということ、あるいはここにタンクがあったという案内看板はつけさせていただいている。これからもどのように使われてきたのかなどをご紹介していきたい。レストハウスについては、そこは昔ポンプ室だったので、ポンプの一部を飾ってこういう利用をされていたという説明をつける設計をしている。

坂井議員：アメリカっぽいところがだいぶ横浜から抜けていっているが、それをうまく利用して、成功例にしていきたい。

ミュージカルやダンスの練習用に、できれば鏡のようなものを置いていただきたい。広いところがないとラップを吹くことはできないので、そういう設備もほしい。(意見のみ)

	<p>谷田部議員（座長）：その他、事務局から何かあるか。</p> <p>小柳総務課長：本日の会議の資料要求についてだが、スクールゾーン関連の要望についてどのようなものがあるかというご質問をいただいたため、会議の資料要求として扱わせていただく。</p> <p>もう一点、本日、土砂災害警戒情報に関して、金沢区避難場所を5箇所開けており、大道小と西柴中に2人ずつ計4名の方が来られていたが、すでにお帰りになった。そのため、避難場所にいらっしゃっている区民の方は現在いらっしゃらない状況となっている。</p> <p>渡邊土木事務所長：昨日の段階で水路のパトロールなど事前にできる対策は全て終わらせて本日を迎え、緊急体制で対応できる体制は万全にしている。そのような中で、2点だけご報告申し上げる。</p> <p>午前中、朝比奈インターのそばで道路の水が少し上がってきているという通報を受け、土木事務所が街路松等の清掃を直ちに行ったところ、水位が引いて、特に通行止め等の被害はない状況である。</p> <p>2点目について、正午頃、釜利谷南にある六郎橋という橋で、夜半から雨が降り続いて水位が上がっているという通報を受けて、スクリーン清掃を行ったが、道路に冠水をしたという状況があり、警察と連携をして100mほど、道路の通行止めを1、2時間ほど行った。普段は必ずスクリーンの清掃に回るポイントになっており、事前に清掃をしていたところであった。この会議が終わる前にはすでに対応が終わり、解消されたという報告を受けている。</p> <p>小柳総務課長：土砂災害警戒情報に関して最新情報が入り、17時10分に解除された。ご承知ください。</p>
備 考	